

セミナー（12月20日）

## 「スローフードの理念と活動」

スローフード協会国際本部日本担当  
スローフード・ジャパン国際部長 石田 雅芳

スローフード運動は、1986年に北イタリアで始まった食に関する「アルチ・ゴラ」運動を起源とする活動であり、その後パリの国際大会で正式に国際運動としてスタートした。現在は世界中に8万人の会員、800余のコンヴィヴィウム（支部）を持つまでに成長し、現在も各地で会員が増えている。スローフードの発想は「食べ物の味を守る」ことが「人々の喜びを守る」ことであると認識するところから始まっている。同協会の具体的な活動には次のようなものがある。

### 「味の箱舟（アルカ）計画」:

少数の小規模生産者によって生産され、その生産量が限られ近い将来絶滅する可能性がある希少な食材や食品をみつけ、その生産や消費を守る活動である。ここで食品を単なる「モノ」として捉えるのではなく、文化、歴史、芸術の中のカテゴリでみるのが重要となる。食を守るために、生物多様性を守り文化を継承しながら教育することにも着目している。

### 「チーズ祭り」:

スローフードには「消費者は生産者ともっと語り合うべき」という問題意識から、多くの国際見本市を企画している。「チーズ」はその一つで、スローフード協会の本部があるピエモンテ州ブラ市に世界各地から180の生産者が見本市に出展し、試食・PRを行う。なお、EUの安全性基準の遵守することが求められているが、この過剰な衛

生基準によって地域特産の優れたチーズ生産が維持できなくなるという問題がおきており歴史ある食文化が国際的な基準によって根絶やしになることも危惧される。

### 「サローネ・デル・グスト」:

スローフード協会が主催するヨーロッパ最大の国際食見本市。生産者自身が実際に目に見える形で展示・販売しながら、スローフードの理念を広めるのを目的としている。

### 「テッラ・マードレ」（「母なる大地」の意味）:

世界の生産者たちによる生産者のための交流の場で、参加者間の連携を深めながら国際ネットワーク化を図るのを狙いとしている。

（文責：高橋克也）